

第1章 教育行政の概観

1 平成29年度の本県教育の概要

東日本大震災、原子力発電所事故から6年が経過してもなお、多くの子どもたちが県内外への避難生活を続けているなど厳しい状況が続いているが、小高産業技術高等学校が避難指示の解除された地域における高等学校として初めて開校したほか、地域と共に学びあい、支え合いながら生きる社会の実現を目指す、たむら支援学校も開校した。また、避難指示の解除等に伴う小中学校の学校再開の動きが加速化するなど、本県教育の復興がまた一歩前進した。

このような中、県教育委員会においては、平成29年3月に策定した教育政策の骨太の方針「頑張る学校応援プラン」に掲げた主要施策を戦略的に推進し、本県教育の充実を図った。また、年度末には福島イノベーション・コースト構想を担う人材の育成や新学習指導要領に示された小学校英語教育への対応、県立高校改革など、プラン策定後の状況の変化を踏まえてプランの一部を改定した。

本年度は、教員の業務改善に向けた動きが大きな話題となった1年であった。文部科学省から「教員勤務実態調査」の結果が公表され、教員の長時間勤務に注目が集まったほか、スポーツ庁からは生徒の望ましいスポーツ環境の構築などの観点から「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が通知されるなど、具体的な対応策も示されはじめた。本県においても、初めて「教員勤務実態調査」を実施し、全国の状態を上回る看過できない長時間勤務の実態が明らかとなった。これらを踏まえて関係団体と連携しながら「教職員多忙化解消アクションプラン」を策定し、アクションプランの着実な実施により教職員の長時間勤務を改善することにより、学校のチーム力や教員の指導力を最大化し、豊かな教育環境の形成を目指すこととした。

2 第6次福島県総合教育計画及び「頑張る学校応援プラン」に関連する主な事業・取組

(1) 第6次福島県総合教育計画

ア 基本理念

“ふくしまの和”で奏でる、
こころ豊かなたくましい人づくり

イ 基本目標

- 基本目標1 知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成
- 基本目標2 学校、家庭、地域が一体となった教育の実現
- 基本目標3 豊かな教育環境の形成

本計画の運用に当たっては、毎年度重視する観点を定め、これに基づく事業を明らかにするとともに、計画の進捗状況を点検・評価することとしている。平成29年度からの4年間の重視する観点を「頑張る学校応援プラン」に掲げた5つの主要施策とし、これらに沿った事業を重点的に推進することにより、本県教育の充実を図った。

(2) 「頑張る学校応援プラン」

ア 性質

第6次福島県総合教育計画の後半4年間の取組を加速化させるべく、教育政策の骨太の方向性と必要な主要施策を厳選して打ち出したもの。

イ 特徴

本県の教育をめぐる現状について、データによる分析を行い、本県の強みや課題を「見える化」した。

課題等に応じた有効な「手立て」として5つの主要施策を掲げ、戦略的に実行することとした。



ウ 主要施策及び対応する主な取組

主要施策1 学力向上に責任を果たす

- 取組1 学びのスタンダードによる授業力の向上
- 取組2 高校入試の見直し(ふくしまの中高接続改革)
- 取組3 苦手分野に応じた、きめ細かな指導・助言
- 取組4 アクティブ・ラーニングなど本県ならではの教育の強化
- 取組5 PDCAサイクルによる学力の定着

主要施策2 教員の指導力、学校のチーム力の最大化

- 取組1 新たな職(副校長、主幹教諭)の設置
- 取組2 教職員の多忙化への対応
- 取組3 同僚間で学び合うアクティブ・ラーナーとしての教員へ
- 取組4 教員研修の質的充実
- 取組5 学校における達成目標や特色の明確化

主要施策3 地域と共にある学校

- 取組1 地域と学校の協働の促進
- 取組2 コミュニティ・スクールの促進
- 取組3 福島版コラボスクール構想(仮称)の策定

主要施策4 ふくしまの未来に向けた創造的復興教育

- 取組1 「変革者たれ!」ふたば未来学園における教育実践
- 取組2 小高産業技術高校の開校
- 取組3 12市町村の特色ある教育(学校再開支援チーム)
- 取組4 「新」双葉地区教育構想の推進
- 取組5 元気な福島の発信

主要施策5 学びのセーフティネットの構築

- 取組1 子どもたちの心のケアの充実
- 取組2 震災後に落ち込んだ体力・運動習慣を取り戻す
- 取組3 家庭の経済状況等に関わらない学びの環境整備
- 取組4 特別支援教育の環境の充実
- 取組5 スマートフォン・インターネットとのつきあい方

(3) 「頑張る学校応援プラン」に関連する主な事業・取組

主要施策1 学力向上に責任を果たす

一部新 ピューアハートサポートプロジェクト（道徳・人権教育支援事業）

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの派遣や、24時間電話相談体制の整備など、子どもたちの心や生活のケアをきめ細かに実施した。

また、震災の影響で安定した生活環境等を取り戻せていない生徒に対して、心のサポートに資する学習支援を実施した。

新規 「学びのスタンダード」推進事業

「学びのスタンダード」を基に、より質の高い授業の実施、効果的な家庭学習の実践、研修の実質化等を図り、児童生徒の学力向上を通して福島未来を担う子どもたちの育成をした。

継続 少人数教育推進事業

小学校、中学校において30人学級、30人程度学級編制に必要な教員を配置した。

継続 学力向上推進支援事業（小・中学校）

指導改善に資する評価問題の作成や、効果的な指導法の実践研究を行ったほか、学力調査を実施し、把握した実態に応じた授業改善を図った。

継続 グローバル人材を育む小中英語教育推進事業

双葉地区の小中学校を対象に、ライブ授業や外部施設における異文化体験交流活動等を実施した。

新規 地域と共に創る放射線・防災教育推進事業

災害や放射線に関する課題と対応について児童生徒に考えさせ、安全・安心な社会づくりに貢献する態度を育成した。

新規 アクティブ・ラーニングによる学力向上推進事業

アクティブ・ラーニングの手法を授業に取り入れ、新しい時代に求められる学力の向上を図ったほか、各学校のミッションを全面的に支援することにより生徒の進路希望実現を図った。

継続 福島未来を医療で担う夢応援事業

医療に携わることで復興や社会に貢献したいと考える子どもたちの夢を実現させるため、体験学習等を行い、進路実現に向けた学習意欲の醸成を図った。

継続 次世代のふくしまを担う人材育成事業（小・中・高等学校）

職業選択のミスマッチや目的意識喪失による中途退職者の減少を目指すため、学校と企業が連携して生徒の主体的な進路選択能力の育成などを図った。

一部新 ふくしまで生活基盤を築くための高校生支援事業

生徒面談や講話などを通して、社会人として自立するためのサポートを行った。また、県外に避難している高卒就職希望者の帰還を支援するため、求人情報等の提供を行った。

継続 福島未来を担う高校生海外研修・グローバル支援事業

国際社会に貢献できる人材を育成するため、ホームステイ研修の旅費の一部を支援したほか、研修で得た経験などを発信するための英語プレゼンテーションコンテストを実施した。

継続 復興と未来を担うグローバルリーダー育成事業

会津高校の生徒が地域課題等のテーマを設定し、グローバルな視点からの探究活動等を行い、その成果を地域に還元する学習活動を行った。

継続 先駆けの地における再生可能エネルギー教育推進事業

推進校において再生可能エネルギーに関する実用的・専門的な学習を行い、その成果について情報発信し、他校でも活用できる指導プランや学習プログラムを提供した。

継続 ふくしまの未来をひらく読書のカプロジェクト（後掲）

主要施策2 教員の指導力、学校のチーム力の最大化

一部新 県立学校IT環境推進事業

学校における情報セキュリティの確保や多忙化解消のため、教職員用パソコンの更新、配備を行った。

継続 教員の多忙化解消のための取組

「学校運営の効率化のための取組事例集」を周知するとともに、教職員多忙化解消プロジェクトチームを立ちあげ、「教職員多忙化解消アクションプラン」を策定した。

継続 優秀教職員表彰制度

教職員の志気を高め、教育活動全体の活性化を図るため、学習指導や生徒指導等において、日常的に努力を積み重ね堅調な成果を挙げている教職員を表彰した。

継続 学校組織運営体制の改善

教員の負担軽減を図るため、校務分掌の見直しや保護者要望対応への支援等について検討・改善に取り組んだ。

新規 復興を担うアクティブ・ラーナー育成事業

地域課題等の解決に取り組む「アクティブ・ラーナー」を育成することにより、地域との共生を図り、本県復興を担うたくましい人材を育成した。

継続 英語指導力向上事業

国際社会に貢献できるグローバル人材の育成を図るため、小・中・高校における英語指導や学習評価についての研究開発等を行い、取組を推進するリーダーを育成した。

継続 教職員の資質向上に向けた研修の充実

今日的な教育課題や教員のライフステージに応じた研修を体系的・計画的に行い、教職員の資質向上を図った。

継続 学校評議員による学校関係者評価の実施

保護者や地域住民等の意向を把握・反映させ、学校運営を改善することにより開かれた学校づくりを進めた。

継続 校長・教頭のためのマネジメント講座

校長及び教頭の管理職としての資質を向上させ、学校経営、運営面での体制を強化した。

新規 「学びのスタンダード」推進事業（再掲）

継続 学力向上推進支援事業（小・中学校）（再掲）

主要施策3 地域と共にある学校

継続 「学校へ行こう週間」の推進

「ふくしま教育週間」を中心に開かれた学校づくりのための各種取組を促進し、学校、家庭、地域が連携して子どもたちを育てていく契機とした。

新規 地域学校協働本部事業

学校と地域が相互に連携協力を進め、社会総ぐるみでの教育の実現を推進した。

継続 ふくしまの未来をひらく読書のカプロジェクト

県内各地域で活躍できる読書活動支援者を育成することにより、より良い読書環境づくりを進めた。

継続 地域でつながる家庭教育応援事業

P T A と連携して親自身が学ぶ機会を充実させたほか、企業と連携して地域の家庭教育推進を働きかけた。

継続 地域の「きずな」を結ぶ民俗芸能支援事業

継承の危機に瀕している民俗芸能の円滑な継承を促進するため、地域のつながりを再構築するための活動に対して補助を行った。

継続 児童生徒の体力向上推進事業

小・中・高等学校の教員に対し、体育授業等における指導力向上のための研修を行ったほか、武道やダンスの指導に地域人材を活用した。

継続 地域と共に創る放射線・防災教育推進事業（再掲）

継続 学校評議員による学校関係者評価の実施（再掲）

一部新 ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト（後掲）

主要施策4 ふくしまの未来に向けた創造的復興教育

継続 双葉地区教育構想緊急対応事業

ふたば未来学園高校において、猪苗代町で緊急的に設置している学生寮や、トレーニング環境等を整備した。

継続 ふたば未来学園中学校・高等学校整備事業

ふたば未来学園中学校・高等学校の校舎・寄宿舎等の施設を整備し、生徒の学習環境や生活環境の確保をした。

継続 子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業

子どもたちにふくしまの今を伝える活動などを提供することにより、復興を担うたくましい子どもたちの育成を図った。

継続 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

人と人との関わりの中で感じた思いや願い、震災からのさらなる復興などを綴った十七音の作品を募集し、県内外に広く発信した。

継続 双葉地区教育構想（福祉健康人材育成プラン）

福祉・健康分野で活躍する人づくりを推進するため、専門的な授業を行った。

継続 双葉地区教育構想（国際人育成プラン）

震災からの復興に向けて国際社会に貢献できるグローバル人材の育成等を図るため、スポーツ交流事業や国際理解事業に取り組んだ。

新規 小高スーパープロフェッショナル人材育成事業

小高産業技術高等学校において、幅広い知識と高度な技術を身に付けた産業人材の育成を図るためのカリキュラムを実施した。

継続 スーパーグローバルハイスクール事業

ふたば未来学園高等学校において、企業・大学等と連携を図り、国際的素養の育成をはじめとした質の高いカリキュラムの開発・実践等に取り組んだ。

継続 双葉郡中高一貫校設置事業

ふたば未来学園の備品、教材、教具等の整備や寮、食堂の運営の支援を行ったほか、県立中学校検討協議会を開催し、県立中学校の在り方や教育内容を協議した。

継続 小高統合高等学校設備整備事業

小高産業技術高等学校において、地域の復興を担う人材の育成や、通学における安全、安心を確保するために必要な教育環境を整備した。

一部新 双葉・南相馬教育復興推進事業

双葉郡の小中学校や、ふたば未来学園高校、南相馬地域の高校における教育の魅力化を図るため、外部講師の招へい、交流事業等を行ったほか、避難地域12市町村の学校再開への支援を行った。

継続 学校改革推進事業

高校の統合、募集停止等に係る関係者からの意見を聴く機会とするための懇談会を開催したほか、中高一貫教育を推進するための協議会の開催、交流授業や地域理解教育等を行った。

継続 サテライト校等支援事業

相馬農業高等学校飯館校とふたば未来学園高校の学力向上やキャリア教育に関する取組などを支援したほか、県内各地に避難している中学生がふたば未来学園高校を受験しやすくするための支援などを行った。

継続 グローバル人材を育む小中英語教育推進事業（再掲）

新規 復興を担うアクティブ・ラーナー育成事業（再掲）

継続 ふくしまの未来を担う高校生海外研修・グローバル支援事業（再掲）

継続 復興と未来を担うグローバルリーダー育成事業（再掲）

継続 ふくしまの未来を医療で担う夢応援事業（再掲）

主要施策5 学びのセーフティネットの構築

継続 大規模改造事業

老朽化した学校施設を改修し、機能の復元を行うとともに、構造体の劣化状況調査を行った。

継続 県立学校校舎等改築事業

耐震改修工事による耐震化が不可能とされた県立学校施設等の改築を行った。

継続 特別支援学校整備事業

児童生徒の増加や通学地域の広域化に伴う長時間通学等の課題を解消するための適切な環境づくりや、複数の障がい種に対応した専門的な教育を行える学校づくりを推進した。

継続 ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業

子どもたちの豊かな人間性と生きる力を育むため、震災の経験を踏まえ、郷土の良さを伝えあい発信していくような交流活動や、充実した自然体験活動等を行う機会を提供した。

継続 ふくしま未来キッズワクワクプロジェクト

体を動かすことの魅力を伝え、運動不足や体力増進につながるため、自然の家においてアスレチック等の様々な体験活動を楽しめる事業を開催した。

継 続 復旧・復興の基盤づくりのための教員配置

震災により懸念される児童生徒の学習の遅れを支援するための教員を配置した。

継 続 被災児童生徒等就学支援事業

東日本大震災による被災や、原子力発電所の事故により避難している児童生徒等に就学支援等を行った。

継 続 サポートティーチャー活用事業

児童生徒の心のケアにおけるつまずきの解消のため、サポートティーチャーを学校や教育委員会に派遣し学習を支援した。

新 規 「子どもを守る・子どもが守る」ICT ツール適正使用推進事業

子どもたちがICTツールを安全かつ適切に使用することができるようにするため、ふくしま高校生スマホサミットを開催し、高校生が「ふくしま高校生スマホ宣言。」を発表した。

継 続 高校等奨学資金貸付事業

経済的理由や東日本大震災の被災により就学困難と認められる高校生等に奨学資金の貸与を行った。

継 続 高校等奨学資金給付事業

低所得世帯の高校生等の教育費負担を軽減するため、奨学資金を給付した。

継 続 大学等奨学資金貸付事業

経済的理由や東日本大震災の被災により就学困難と認められる大学生等に奨学資金の貸与を行った。

継 続 インクルーシブ教育システム推進事業

特別支援教育の推進や充実を図るため、特別支援学校のセンター的機能を活用し、関係機関との連携や早期からの一貫した支援体制の整備・充実を図った。

継 続 夢に向かってテクノチャレンジ事業

特別支援学校高等部に在籍する生徒の自立や社会参加を促すため、「特別支援学校作業技能大会」を開催した。

一部新 平成29年度南東北インターハイ開催事業

南東北インターハイを開催し、高校部活動を通して本県の復興を県内外に発信したほか、高校生が主体的に広報活動や来県者へのおもてなしを行った。

一部新 ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト

震災後の子どもたちの体力低下や肥満傾向児出現率の増加などの健康課題を解決するため、自分手帳の活用や地域スポーツ人材の派遣など、運動能力の向上や食育等による健康増進に向けた事業を行った。

一部新 ふくしまから はじめよう。元気なふくしまっ子食環境整備事業

元気なふくしまっ子を育むため、関係部局等と連携して、学校、家庭、地域が一体となった食育推進体制を整備した。

一部新 学校給食地場産物活用事業

望ましい食習慣の形成や食育の観点から、学校給食に地場産物を活用する市町村の取組を支援した。

新 規 地域学校協働本部事業（再掲）

一部新 ピュアハートサポートプロジェクト（いじめ・教育相談推進事業）（再掲）